

事業所名

児童デイすぎと ちいさな木

支援プログラム

作成日

2025

年

2

月

18

日

法人（事業所）理念		いつでも、いつまでも、子どもたちとある。それが私たちです。	
支援方針		今しかない大切な子ども時代をひとりひとりの発達や特性に合わせてそれらを体験できるよう様々なスキルアップを療育と位置づけ、子どもをど真ん中にそえて、ご家族と私たちで「共そだて」を目指しています。	
営業時間		10 時 00 分から 18 時 00 分まで	送迎実施の有無 あり
支援内容			
施設種別		児童発達支援	
本人支援	健康・生活	身支度支援（提出物・ハンガーかけ・靴の脱ぎ履き）・基本的な生活習慣（手洗い・歯磨き・トイレの自立・排尿・排便チェック）への支援・食事への支援（偏食改善・食具の使用支援；個別学習含む）・雑巾がけ（絞り・干し）・視覚的支援による生活スケジュールの提示	身支度支援（提出物・ハンガーかけ・靴の脱ぎ履き）・基本的な生活習慣（手洗い・歯磨き・トイレの自立・排尿・排便チェック）への支援・食事への支援（偏食改善・食具の使用支援；個別学習含む）・雑巾がけ（絞り・干し）・視覚的支援による生活スケジュールの提示・お手伝い（テーブル拭き・お茶入れ・配膳）・あいさつ・司会としての取り組み
	認知・行動	プログラム【集会】でのSSTや認知教材を使った集団学習・認知教材を使った個別課題への取り組み 視覚支援（絵・写真）カードを使った要求行動またはサイン言語の支援 一斉指示の苦手な視覚支援による切り替え行動支援・ルールのある集団遊び	プログラム【集会】でのSSTや認知教材を使った集団学習（長期休暇のみ）・認知教材を使った個別課題への取り組み 視覚支援（絵・写真）カードを使った要求行動またはサイン言語・指文字の支援 一斉指示の苦手な児童へ視覚支援による切り替え行動支援・ルールのある集団遊び
	運動・感覚	プログラム【リズム運動（さくらさくらんぼリズム）】での音楽に合わせた全身運動・手つなぎ（触覚過敏緩和）歩行（長時間の散歩）による覚醒上げ及び体幹の強化・公園遊びによる身体の使い方（ボディイメージ）の向上・巧技台やサーキットによる室内運動による身体の使い方（ボディイメージ）の向上・夏期におけるプール遊び（水への感覚過敏の緩和）とトランポリンやボールプールなどにより感覚刺激の入力	プログラム【リズム運動（さくらさくらんぼリズム）】での音楽に合わせた全身運動（長期休暇のみ）・散歩による覚醒上げ及び体幹の強化・毎日の公園遊びによる身体の使い方（ボディイメージ）の向上や心身の発散・巧技台やサーキットによる室内運動による身体の使い方（ボディイメージ）の向上・ロールマットによるバランス運動・夏期におけるプール遊び（水への感覚過敏の緩和）トランポリンやボールプールなどにより感覚刺激の入力
	言語コミュニケーション	プログラム【集会】でのことば遊びや歌・読み聞かせ・言語教材による言葉の体験・発語や理解言語、内言語の向上・口腔運動・視覚支援やサイン言語によるコミュニケーションの向上・友だちとのコミュニケーションへの介入支援・ノンバーバル言語について大人が児童の気持ちをくみ取り言語化していく	プログラム【集会】でのことば遊びや歌・読み聞かせ・言語教材による発語や理解言語、内言語の向上（長期休暇のみ）・視覚支援やサイン言語によるコミュニケーションの向上・友だちとのコミュニケーションへの介入支援・5WHを使った発表・あいさつの会や帰りの会の司会
	人間関係社会性	まずは大人との信頼関係を築き、それを基盤として友だちの中で遊び、友だちとのやり取りを見守りながら必要があればやり取りを助け支援している。自他の区別がついていない幼児については発達段階を見ながら物の貸し借りの方法・言葉を伝えていき、やりとりが出来るようにしている。ノンバーバル言語について大人が言語化	大人との信頼関係を大切に、友だちとのやり取りへの介入支援、毎日の公園遊びでの友達同士の遊びを通じた人間関係やルールを通じた社会性の向上、友だち同士のトラブルへの介入支援
地域支援・地域連携（地域交流・園外活動）		ご近所の方やお世話になっている方をクリスマス会などのイベントに招待したり、近隣の高校生のボランティアの受け入れをしている。また地域における連携幼稚園に子どもと遊びに行ったり、職員が研修として行き、プログラムに参加したり保育と療育の連携をしている。	ご近所の方やお世話になっている方をクリスマス会などのイベントに招待したり、近隣の高校生のボランティアの受け入れをしている。
移行支援		障害が重いとされるご幼児についてはデイサービスのみを利用してもらい、発達支援を行い成長し、保育園・幼稚園通園が可能と判断したら相談支援専門員に伝え、ご家族と面談し併用利用を勧め実現する。また現在通園している場合はデイと園の利用割合を本児の現時点での発達段階に応じて決め、成長するにつれてデイの利用をフェイドアウトして出来るだけ地域の園に移行させている。場合によっては園が休みの長期休みのみで通えるようになった幼児もいる。	ちいさな木は小学校低学年～中学年の児童が利用（年齢区分のみとは限らない）しているが、小学校高学年や中学・高校生のデイであるいちばん星に毎年、児童の成長を判断して移行している。また学習支援が必要な児童については相談支援専門員に学習支援に特化しているデイを紹介してもらい、集団・個別施設の併用利用も勧めている。
家族支援		毎月ご家庭アンケートを提出していただき、ご家庭や保育園・幼稚園の様子そしてご家族の困りごとや悩みを書いていただき、書類にてアドバイスをしたり、必要に応じて面談をし、相談支援専門員も同席の上相談支援をしている。他に相談支援専門員と中心にご家族と関係者会議を行い、関係者で話し合い情報を共有し多面的に支援している。	毎月ご家庭アンケートを提出していただき、ご家庭や学校の様子そしてご家族の困りごとや悩みを書いていただき、書類にてアドバイスをしたり、必要に応じて面談をし、相談支援専門員も同席の上相談支援をしている。他に相談支援専門員と中心にご家族と関係者会議を行い、関係者で話し合い情報を共有し多面的に支援している。
職員の質の向上		オンラインを利用した研修により（発達支援や虐待防止・危機管理など）現場を離れずに全員が視聴し研修出来ることが多くなった。また実習実演のある研修（リズム運動や言葉の学習等）を正規職員に受講してもらったあと、他職員にレクチャー及び情報共有してもらっている。また医療ケア児についても研修も頻繁に参加している。	左記の他に連携幼稚園の理事長にデイに来ていただき保育における発達障害児の成長の記録をちいさな木といちばん星の全職員で見て講演していただき、インクルージョンとは何か、生活の中での療育にどんなものがあるかなど学び、すべてのライフステージをお互いに情報共有して考え対応する意義を学んだ。
主な行事等		クリスマス会、スイカ割り、節分、ひな祭りなど	クリスマス会、スイカ割り、節分、ひな祭りなど